

メディアマルチタスク傾向と認知的失敗との関連

○小林隆昌¹・柏原志保^{1,4}・井加藤美幸²・中嶋智史³

(1 広島大学大学院教育学研究科, 2 広島大学大学院医歯薬保健学研究科, 3 広島修道大学健康科学部, 4 日本学術振興会特別研究員)

はじめに

メディアマルチタスクとは、特定の期間に複数のメディアを同時に使用することである (Ralph et al., 2014)。メディアマルチタスク傾向が高い人 (HMM 群) は、低い人 (LMM 群) よりも注意制御能力が低く (e.g., Ophir et al., 2009), 不注意による認知的失敗 (Ralph et al., 2014) や知覚, 記憶, 運動機能などを含む認知的失敗 (Hadligton & Murphy, 2018) を経験しやすく, 意図的なマインドワンダリング (MW) 傾向が高い (Ralph et al., 2014) ことが報告されている。一方で, メディアマルチタスク傾向と課題切り替えの失敗等の能力は関連しないという報告もなされており (Mincar et al., 2013), メディアマルチタスク傾向と認知的失敗の関連については知見が一貫していない。

そこで, 本研究ではメディアマルチタスク傾向が高い人がどのような種類の認知的失敗経験が多いかを明らかにするために, メディアマルチタスク傾向と認知的失敗の傾向との関係を調べた。

方法

調査対象者 大学生 103 名を対象に実施した。回答に不備があった 1 名を除外し, 最終的な分析対象者は 102 名 (女性 54 名, 平均年齢 19.32 歳 ($SD = 0.55$)) であった。

質問紙 マルチタスク傾向を測定するために, Media Multitasking Index (MMI) 2013 (太田他, 2014) を用いた。また, 個人の認知的失敗の傾向を測定するために, 3 つの質問紙を用いた。第一に, 日常的な失敗傾向の個人差を測定する失敗傾向質問紙 (山田, 1999) であった。これにより, アクションスリップ, 認知の狭小化, 衝動的失敗の 3 つの失敗傾向を測定した。第二に, MW 傾向の個人差を測定する日本語版 Mind-Wandering Questionnaire (MWQ; 梶村・野村, 2016) を用いた。第三に, 自己に対する注目の傾向の個人差を測定する Rumination-Reflection Questionnaire 日本語版 (高野・丹野, 2008) を用いて反すう傾向を測定した。

手続き 講義中に質問紙を配布し, 回答終了後に回収した。

結果

太田他 (2013) に基づいて MMI 得点を算出し, MMI 得点の平均から 1SD 以上 ($MMI > 1.87$) を HMM 群, 平均から 1SD 以下 ($MMI < 0.24$) を LMM 群とした。両群の MMI 得点を比較した結果, HMM 群は LMM 群よりも得点が高かった ($t(33) = 18.64, p < .001, d = 7.36$)。各群における各尺度の平均得点および標準偏差を Table 1 に示す。

尺度ごとに対応のない t 検定を行った結果, 反すう ($t(33) = 2.78, Bonferroni adj.p = .045, d = 0.95$) において HMM 群は LMM 群よりも得点が高かった。一方で, その他の尺度は, 群間に差が見られなかった ($Bonferroni adj.ps > .465, ds < 0.59$)。

Table 1

	HMM群 (N = 15)		LMM群 (N = 20)		<i>t</i>	<i>p</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>		
MMI得点	2.49	0.50	0.06	0.06	18.64	.000
アクションスリップ	32.87	7.97	29.45	9.96	1.09	.283
認知の狭小化	30.27	7.27	27.40	8.96	1.01	.318
衝動的失敗	12.47	6.47	9.90	5.42	1.28	.211
MW	20.93	3.58	18.65	4.07	1.73	.093
反すう	46.47	7.16	39.75	7.01	2.78	.009

考察

本研究では, メディアマルチタスク傾向と認知的失敗の傾向との関連を調べた。その結果, HMM 群は LMM 群よりも反すう傾向が高いが, その他の尺度間では差はなかった。HMM 群は, LMM 群に比べて能動的な注意制御能力が低いため (Ralph et al., 2014), ある思考から能動的に注意を切り離すことが困難になり, 反すう傾向が高くなる可能性が考えられる。

一方で, Hadligton & Murphy (2018) ではメディアマルチタスク傾向と認知的失敗傾向に正の関連が見られたが, 本研究では両者の間に関連は見られなかった。これは, 本研究の参加者のメディアマルチタスク傾向の低さが原因の一つとして考えられる。本研究では MMI 得点が Hadligton & Murphy (2018) に比べて全体的に低いことから, 失敗傾向に違いが見られなかった可能性があるため, 失敗傾向については今後さらに検討していく必要がある。